

「実用触媒の現状と問題点 改良のためのモデル触媒研究」

趣旨

実用触媒を改良し、より高性能化するためには、活性サイトや反応機構を明らかにした上で、反応をより高度に制御し得る活性点構造をもった触媒を作り上げていく必要があります。しかし、**商業触媒**は一般には細孔構造を有する粉末担体に複数の活性金属を担持させて用いる複雑系であり、原子スケールでの解析が可能な表面科学のキャラクタリゼーション手法の適用は困難と考えられてきました。一方、欧米では近年、実用触媒の反応の検討から**モデル触媒**(例えば酸化物単結晶上に金属を蒸着させた触媒系)を作成し、**表面科学のキャラクタリゼーション手法**を適用し、実触媒作用条件下での反応活性測定と組み合わせた基礎研究を行うことにより、実用触媒の改良に結びつける研究が盛んになってきております。しかし、日本では、一般に企業で実用触媒の開発に携わっている方々と表面科学に携わっておられる方々の間にギャップがあり、このような研究が進みにくい状況と思われまます。そこで、本シンポジウムでは、1)モデル触媒研究の有用性を認識してもらい、2)実用触媒の研究から、その性能向上を目的としたモデル触媒の抽出といったところに軸足を置いて、実用触媒の開発に携わっておられる企業の方々と表面科学をやっておられる方々との接触の場を設けることを企画いたしました。依頼講演3件に加えて、口頭発表、ポスター発表を公募いたしますので、積極的な申し込みお待ちしております。

主催 触媒学会精密表面材料研究会

協賛

日時 平成16年7月16日(金)講演会 10:00-17:00 懇親会 17:10-18:30

会場 京都工芸繊維大学:京都市左京区松ヶ崎御所街道町([交通]京都駅より地下鉄烏丸線、松ヶ崎駅下車、徒歩10分)

プログラム

依頼講演と口頭発表 総合研究棟4階多目的室

1.角本 輝充(大阪ガス(株))「計算科学および表面科学手法を用いた環境触媒設計 - CO₂接触水素化触媒およびNO_x直接分解触媒の開発 - 」

2.松岡 修(三井化学(株))「ナバル観察技術を用いた実用触媒表面解析」

3.小林 久芳(倉敷芸術科学大学)「電極触媒反応の理解を目指したDF法による研究」

ポスター発表 大学会館2階展示ホール

発表申し込み方法と締め切り (1)講演題目、(2)所属(研究場所)、(3)発表者氏名(講演者に○印)(4)連絡先(郵便番号、所在地、所属、氏名、電話、Fax、電子メールアドレス)(5)発表形式の希望(口頭かポスターか、必ずしもご希望に添えない場合があります)を記載して、電子メールまたはFaxでお申し込みください。平成16年7月5日(月)「必着」

講演要旨締め切り A4 1枚 電子メールにて送付ください。7月9日(金) 必着

参加費 一般 3000円、学生1000円(講演要旨集一部を含む)当日、会場にて受付いたします。

懇親会 大学会館1階アルス 参加費3000円

問い合わせ、発表、参加申し込み先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎 京都工芸繊維大学 物質工学科 飯塚泰雄 Tel&Fax 075-724-7502 e-mail izuka@ipc.kit.ac.jp